

【第3回総合計画策定委員会】

■日時：2022年8月29日（木）13：30～15：30

■場所：中城村役場会議室

■出欠：

- ・出席：全員（うち代理出席：生涯学習課、議会事務局、会計課）
- ・事務局：企画課、ST

■次第：

1. 開会
2. 報告事項
 - （1）前回審議会のご意見と対応方針（資料1）
 - （2）パブリックコメントにおける意見報告（資料2）
3. 検討事項
 - （1）第五次総合計画（素案）について（資料3）
4. その他
5. 閉会

■議事録：

(1) 報告事項について（説明：ST 森口）

- 福祉課 中城村が好きを選んだ前回会議の主な議論はどんなだったのか。
- ST 森口 中城村に住み続けてもらうというのが大きなミッションであるという事を前提に、端的な好きという言葉の持つパワーが今住んでいる村民の方にも届くのではないかという事だったが、満場一致の意見ではない。
- 福祉課 パブコメ7番目の意見が重要だと思う。好きだという言葉はインパクトはある。愛されていることは誇りだし、大切だと思うが、こちらが思っている意図が十分に伝わっていないから、このような意見が出ているのではないか。
- ST 森口 主語がどうなるかは大切。例えば「村民に愛される村」としたとして、愛してくれるのは村民だけでなく、交流人口や関係人口を含む。全ての人が中城を好きになってもらうという意味では、主語は中城に関わる全ての人。具体的なイメージを沸かせるというより、それぞれの人が自分なりに中城を好きを解釈できる余地を与えるというのが狙いの一つ。
- 教育長 総合計画は村から村民に発信していくものだと思っているが、その視点でみると中城が好きというタイトルはどうか。
- ST 森口 計画そのものの捉え方になるが、発信だけでなく一緒にやる、賛同を得るという部分もあるので、立場によって、見る人によって違ってくる部分があると思う。持ち帰ってもらって課内などでも話してもらって次回もう一回議論できれば。ただし大きな方向性としては過去10年まではいかないにしても、人口を伸ばすことを前提に、今住んでいる人に留まってもらうということをベースにするという事は共通認識として持ってもらう、改めてご意見を伺う場を設けたい。
- 村長 パブコメ6、新しい事への挑戦も…とあるが、言葉だけで捉えると、これからまだまだ発展していくと考えて、そろそろ村からの脱却ではないかというイメージになる。中城村→中城、この村で→ここでのような。本土では人口20,000人の村というとびっくりされるが、沖縄では村（むら）と村（そん）は全然違うもののようなイメージ。一方でご意見にあるように、変わっていきすぎていいものが無くなるという懸念もある。難しい。
- ST 森口 確かに中城は内地の人間のイメージする村とは離れているもの。村長のご指摘にあった村からの脱却という部分ではいかかがか。そもそも村という言葉はネガティブなイメージか、ポジティブなイメージか。
- 産業振興課 年代によって変わるのではないか。年代が上がると村民と言われるのが誇りに感じるのかも。
- 村長 村民が読んで気持ちがあがる方がいい。取組みなどの内容に村という言葉が入ってくるのはいいが、イメージ戦略としては村という言葉を入れる方がいいのか。
- ST 森口 村民、住民という言葉を書き込みに使う段階で迷う部分がある。村であることは間違いないが、イメージ戦略として村民、村づくりなどから村を外してもいいのではないか。ただし村に愛着や誇りがある人が多いなら慎重にする必要がある。
- 村長 下地区でも図書館ができて庁舎ができて学校が3つ綺麗になって、ここを中心にやっていくというメッセージを出しているのと同じ。それだけでも南上原での格差が縮まっているのではないか。村（むら）や村（そん）という言葉の使い方が変わっていくべきなのか難しい。ただし村政から町政になるのとは別の話。
- 福祉課 北谷も村から町になった。あそこも下と上の格差があるが、住んでいる人は町かどうかではなく北谷が好きというのがある。中城も同じように中城ブランド、中城イメージで捉えることができるようにするのであれば、村を外してもいいのでは。村の人が中城村が好きではなく、中城が好きということで中城全体ブランド、

イメージとして好きだということであればそれでいいのではないか。上、下は関係なく中城全体が好きという郷土愛のようなものが醸成できれば。

産業振興課 前回の会議では、好きという将来像はなかなかないという話をして、さらにタイトルに疑問を持たせて、そこから内容を理解するという方向でもいいのではという話をしたと思う。職員もそこに疑問をもってちゃんと説明できるようになれば。

ST 森口 中城村と中城の違いが共有できると戦略的には成功なのではないか。

企画課 周辺の市町村では将来像の中に町、市、村がついているところは少ない。

ST 森口 四次の時は住みたい村として入っていて、村であるということを戦略的に押し出していたというのがあるが、全て踏襲する必要はもちろないので、今回は戦略的に中城というキーワードをたてる形で事務局として整理する。

(2) 検討事項について

①素案について（説明：ST 森口）

副村長 施策 19、共同のまちづくりは実施に向けて検討中だが計画にはどのような事を載せるのか。

ST 森口 p79 に記載。北中城との共同のまちづくりは進んでいるので推進という形で基本計画に記載するのが良いと思う。問題は都市計画区域の見直しを含めた…という部分の書き方をどうするか。

副村長 共同のまちづくりは今年で終わるけど…。

ST 森口 共同のまちづくりについては、今後、これに基づいた事業展開や県に対しても北中城との連携は重要になると思う。

こども課 先ほどの議論でいくと、P10-11 の中の表現は「むらづくり」より「まちづくり」の方がいいのでは。

村長 まちづくり推進課がある。設立の時にむらづくり推進課という事にはならなかった。まちづくりという言葉も、町でも街でも違うなということひらがなになっている。

産業振興課 むらづくりを全部中城でもいいのでは。

村長 できるところはそれでもいいけど、全部は無理では。

ST 森口 基本理念も「むらづくりの基本理念」としているが、むらづくりの部分はなくても成立する。タイトルなどは第四次に引っ張られている部分が多いが、今日の議論を受けて村という言葉の取扱いを精査した場合には、基本理念もむらづくりを外した方がいいかもしれない。文言については事務局で精査するが、むらづくりという言葉は外す方向で整理する。

福祉課 住民と村民の使い方も整理を。

ST 森口 今後、村民の皆さん、住民の皆さんという投げかけはどっちが多くなりそうか。

村長 住民のみなさんが間違いなく増えていくと思う。個人的な演説でも特に上地区では住民という言葉を使うことが多くなっていると思う。急に変わるものではないと思うが、住民という投げかけが今後増えてくるのでは。

総務課 まちづくりを住んでいる人だけではない。仕事で来ている人や企業の方なども一緒に取組むことになる。であれば村民ではなく住民の方が増えてくるのではないか。

ST 森口 村民という言葉が将来的に住民に置き換わるのであればそれでいいが、どこかに村民という言葉が残るのであれば、考えておく必要がある。

福祉課 住んでいる人には村民、広報や呼びかけについては住民が多くなっている。地域に密着してコミュニティの中に入り込んでいくと村民の方が愛着はあると思う。

村長 言葉は変わっていくもの。例えば部落と集落。それと同じではないか。

福祉課 口語と文語の違いもあるのでは。

ST 森口 村民と住民が計画書の中に混在したときにどう説明すべきかが難しい。

村長 村というイメージは陽か陰で問われると陰のイメージがまだ強い。でも中城は違う。未来は明るいしポテンシャルは高い。

生涯学習課 最近村民というイメージは低くなっている気がする。普段は体育館にいるが、村外の人の利用も多いので余計にそう感じるのかもしれない。年代が上になると村民というのがしっくりくる人も多いが、若い人は住民なのかな。

村長 護佐丸は教育のところには入ってこないのか。

ST 森口 ごさまる学など具体的話は基本計画に入ってくる。

村長 護佐丸はこれからもこだわって使っていくので。共同のまちづくりの所にも中部広域への移行をどこかに入れたい。基本計画 19 の取組みのところで。例えば「北中城村との共同のまちづくりの推進による都市計画区域の見直しを含めた、中部広域都市計画の移行等、多様な～」のように。現時点では目指しているという事で入れてみて、3年後の見直しの時に進めるのかあきらめるのか判断してみれば。

ST 森口 コンサルの立場としては、周辺の市町村が県の動向を見て調整区域の開発に手を挙げつつある中で、中城はしたたかにやっていくのもありなのではないかと思う。中部広域への移行を進めつつ、万が一那覇広域に残らなければならなくなった時には、改定された制度をうまく利用していくための戦略をとっていくことも考えたらどうか。

村長 最もだと思う。結果としてそこに行くのならいい。中部広域をちらつかせることは、優位性を維持することにもつながる。村長としての政策なのでこれについては出していきたい。中城の将来を考えたら下ろすことができないと思っている。

ST 森口 承知した。タウンセンターについては村内の共通認識で間違いはないか。

村長 それは間違いはない。でも今の段階では中部広域はメッセージとしてもどこかに入れてほしい。今後首長が変わった時にはその人が外すという判断をすればいい。

ST 森口 入れておく。基本構想は 11 年、基本計画は前期は 3 年だがどちらに入れるか。

村長 基本計画に入れる。3年後の見直しで再度どうするかを検証していく方がいい。

企画課 52 p に載せる方がいいのでは。

ST 森口 入れる場所は精査するが、載せることは載せる。

福祉課 26 p 以降で関連計画は既存計画を入れているという事でいいか。

ST 森口 既存計画。策定中、策定を目指す計画は入っていない。細かい文言のチェックが各課まだなので、今後各課ヒア等で確認する。

22 p。土地利用については関係課を含めて検討中。大きな部分としては西原道路予定地の沿線土地利用をどうするか。前回もご説明したが、現在、都市マスと農業振興ビジョンで土地利用の位置づけに齟齬が生じている。村内においては新庁舎周辺をタウンセンターとして面的な整備を進めること、久場・泊の速やかな市街化編入、北上原への市街化拡大、登又のスマートインター周辺を県営中城公園を含めた観光拠点と位置付けることについては第四次から踏襲しているが、西原道路周辺については完成が見えてくる中で、計画の齟齬を解消するための検討を実施している。これについては次回会議で報告できれば。

基本計画については見ていただいて次回の各課ヒアリングでご意見ください。

②重点プロジェクトについて（説明：S T 森口）

ST 森口 今後取り組むべき課題を挙げていただいて、各課横断的重点プロジェクトについてアイデアをいただきたい。

福祉課 地域福祉計画では重点事業として位置付けているものがあるが、そういった部分と被っていてもいいのか。

ST 森口 各課横断的なプロジェクトであれば問題ない。事業主体は福祉課で他課との連携によって進めるというのであれば、福祉計画で位置付けているものを総合計画で再度位置付けることは可能。

福祉課 防災マップづくり。地域コミュニティを巻き込んで、地域づくりの視点から支援が必要な人がどこにいるのかを把握した上で、地域で情報共有を図る。さらに支援対象になりうる人が、地域の中で役割をもって活動するという相互的なやり取りにつなげるという考え方。総務課、健康保険課、こども課、教育委員会等と一緒にやるような内容。

重層的支援体制整備事業というのが地域福祉法の中に位置づけられている。ワンストップに近いもの。中城でワンストップの窓口はマンパワー的にも専門性的にも不足していて難しいので、まずは今あるものの中で相談体制の充実や法律に基づく重層体制の位置づけなどは検討しようと思っている。この事業は自殺対策も入るので、その場合は働き方等の面で産業振興課なども入ってくると思う。

ST 森口 防災マップの方が総合計画の重点プロジェクトとしては位置付けやすいと思う。住民に配布するマップと言われるものは、防犯、防災、交通安全など色々なものがあるが、それらについての情報を得ていくために、所管課を含めて関係課がどうやって情報を集めて、どうやって各計画にフィードバックしていくのかを考えると、総合計画への親和性は高いと思う。福祉計画をみて整理したい。

まちづくり推進課 中部都市計画移行に伴って変わることについて、採択を受けてから事業計画を行うのではなく、事前に検討したり調査したりする必要があることについて整理しておくことは必要なのではないか。

ST 森口 中部広域に移行するかは手法論なので、それよりも村内のこの地区についてどうしたいというマスタープラン的なものを作成することが先になるのではないか。タウンセンター構想であれば、役場は既にできているので、それ以外の周辺についてどうしたいのかという計画を検討するという事ではないか。

副村長 それは地区計画では。

都市建設課 農林側の法律と都市計画上の法律をすり合わせて、他の課でもわかるようにしておかなければいけないのでは。

まちづくり推進課 そういうこと。その情報共有ができていないから分野ごとでしか見えていない。

ST 森口 前提条件などを共有して準備会議のようなものを立ち上げることは必要。具体的各論に入る前に、前提条件を各課が把握しておくことが必要。

まちづくり推進課 現状では各課それぞれに考えているので、その調整をする場を設ける必要があるのではないかと思っている。

ST 森口 重点プロジェクトではあるが、課長級の集まった会議にならないか。担当者レベルで協議する内容か。

副村長 方向性がみえないと難しい。タウンセンター部分を調整区域から外さないと開発はできないので、その計画を作るというのは必要では。

産業振興課 現在、西原バイパス周辺の土地利用について4課で話しているのと同じで、各課が持っている事業や予定をみて、村全体の土地利用の方向性を考えていくべきでは。例えば、生涯学習課であれば新垣グスク周りは将来的に公有化しようとか。

まちづくり推進課 担当レベルでもそういった話はしたことがない。

産業振興課 箱モノは機能強化していくが、既存の村道や村排水などは老朽化していたりするし、その対策も考える必要がある。

副村長 排水の話は西原バイパス周辺ではできているので、他の所でも集まって話をする

必要があるのでは。

まちづくり推進課 西原バイパスは具体的な事案になったので検討を始めたが、それ以外の話し合いの予定がない場所についても。

副村長 村土の土地利用にしても、想定として大まかな土地利用を議論しておいた方がいいのではないか。

ST 森口 やることはいいと思うが、計画に重点プロジェクトとして書いてもいいか。

村長 やるのはいいと思う。タウンセンター構想を動かすから、そのための中部広域移行という方向に持っていてもいい。

副村長 西原バイパス周辺の土地利用については西原との連担という考え方はしないほうがいい。連担にすると工業地帯になってしまう。西原バイパス周りは農地か、他の開発ができる部分については場所ごとに検討すればよい。

ST 森口 土地利用構想については西原との連担を伴うような記載は外したうえで329号に接続する辺りについて、新たに土地利用を位置付けるのであれば、タネ地としての扱いにしておけば良いと思う。

産業振興課 中城城跡の活用をみんなで考えていくことが必要。役場だけでなく住民などもみんなまで。

ST 森口 おそらく中城の人が思っているよりも、城跡について知らない人が多い。広報やプロモーションも含めて議論していくのはいいのではないか。

村長 学校の授業で城跡は使えないのか。

こども課 城跡にはどんな建物が建っていたとかわかるのか。

生涯学習課 資料がない。

村長 内地みたいな天守閣があったと思っている人がいるかも。

こども課 復元プロジェクトは。

村長 無理だろう。

企画課 公共交通の充実はどうか。アンケートでも課題に挙げている人が多かったし、中学校のスクールバスなども。重点プロジェクトなのかはわからないが。

ST 森口 いいと思う。

個人的には中城の農業はまだポテンシャルがあると思う。内地でも食糧生産自給率の高い自治体は今後何らかの優位性を持つのではないかという議論も実際ある。農地をここまで残してきているので、農業の可能性を活かしていくことができるのではないかと思うが、どうか。

産業振興課 農地のポテンシャルは高いが、農家一人ひとりの農地規模を考えると難しい。今後は兼業農家を増やしていくのがいいかと思う。農業だけで食べていくのはとても大変なので、農業は本業のボーナス的な感じで農業に携わる人を増やしていかないかと個人的には思っている。初期投資に多額の資金を回すのではなく、出来る範囲で。遊休農地の抑制や農地の有効活用にもつながる。

ST 森口 副業の選択肢の中に農業が入るということ。法人化や組織化された農業の中に週1回とか職員で入って農作業をするというようなことも、あてはまるのではないかと思う。優良農地を有する中城で、そういったことにチャレンジするというのは、未来的で面白いのではないかと思っている。

企画課 今回の資料は案なので、今後またヒアリングなどで調整をさせていただくので、その際はよろしくお願ひします。

終了